



SMILE ASIA in Cambodia

Quality of Life and Happiness for Women and Children

～ 2017 年度の活動レポート ～

プロジェクトサイト

今年は前年度に引き続き、コンボンスプー州サムロントン郡で SMILE クラスを開講しました。プロジェクトサイトとなった 5 つの村へは首都プノンペンから 60km あまりですが、渋滞や農村の道路事情の影響を受け、車で片道 2 時間半の道のりです。



学習者のみなさん

学習者は 5 つの村の計 75 名でした。そのうち、33 名は就学経験の全くない「非識字者」で、残る 42 名は様々な要因で小学校卒業に至らず、生活に必要な読み書きが十分にできない「準非識字者」です。いずれも子育て中の母親や妊娠中の女性、あるいは家庭の事情により孫の子育てを担っているおばあさんたちです。また、今年は、小学校の授業内容についていかれず困っている就学期の女の子も、母親の教材と一緒に使いながら識字クラスに参加しました。

ファシリテーターの研修

SMILE では識字クラスで先生役を務めてくれる方を「ファシリテーター」と呼びます。村長からの推薦や関係者からのヒアリングに基づき、ある程度の教育を受けていて村民からの信頼のあつい方々をファシリテーターとして選出し、4 日間の事前研修（6 月）と 2 日間のフォローアップ研修（11 月）、また現地スタッフによる日々の指導サポートを通じて、指導計画の立案方法や成人を対象とした識字クラスの運営スキルを磨いていきます。今年は、幼稚園教員や村長を含む 5 名のファシリテーターが活躍しました。



自治体関係者や村長も交えて、グループディスカッションをする様子

教材の提供と読書コーナーの設置



ギフトパッケージを受け取り、いよいよ学習の準備が整いました



読書コーナーには法律や権利に関する読本から雑誌まで、幅広く取り揃えられています

例年通り、教科書や補助教材などのブックレット 5 冊を含む「ギフトパッケージ」を学習者全員に配布しました。また、移動式の読書コーナーを各村に設置し、識字環境の整備を図りました。読書コーナーは村の「図書館」として、学習者だけでなく子どもたちにも多く活用されました。

クラスの様子

識字クラスは週二日で、一日当たり2時間です。全課程を通じて読み書き計算の習得を目指すほか、家計簿のつけ方、手紙の書き方、料理のレシピ作りなど、実生活での応用を意識した学びが展開されました。子育て真っ只中のお母さん方は、莫蔭にお子さんを寝転がして、あるいは地域のみなさんに子守をお願いしての参加です。



識字クラスの学習時間とは別に、毎月一度、2時間程度の集まりが催されるのも、SMILE プロジェクトの特徴です。保健センターから専門家を招いての特別講義や実践学習を行うなどして、子育て世代の皆さんの保健衛生分野での意識向上を目指します。保健センターをこれまでより身近に感じたことで、SMILE 開始時にはほとんど診療サービスを利用したことのなかった方々が、定期的に妊婦検診や乳幼児健診に足を運ぶようになってくれました。



学習の成果

SMILE では 3 回の中間テスト結果と最終テスト、出席率を利用して、修了時の学習評価を行っています。今年は 75 名の学習者中 64 名が「合格」と判断されました。残念ながら合格できなかった残り 11 名には、体調や仕事の問題でテストを受けられなかった方々も多数います。こうした方々には、希望があれば、次年度以降も郡政府支援による識字教室で継続して学ぶ機会が与えられます。一方で、SMILE で大切にしている保健衛生習慣にも多くの変化が見られました。

【学習者に見られた変化】

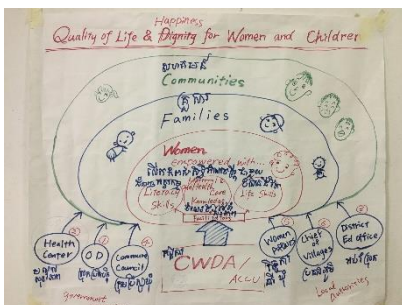
- 子どもが風疹をする際に蚊帳を使用するようになった
- 雨水をそのまま飲料水とせず、沸騰させて使用するようになった
- 排泄後や食前に手洗いを徹底するようになった
- 信仰療法に頼らず、必要な時に適切な医療サービスを自ら求めるようになった

ネットワークの強化

SMILE では様々なレベルでの関係者とのつながりを大切にしています。それは、プロジェクトを成功に導くためには、読み書きや計算などの教育に直接関わる部分から、女性の自立と参画を支援する女性局、保健衛生分野の支援を行う保健セクターまで、横断的なネットワークの活用が必要となるからです。また、教育省レベルから郡教育局、自治体、村長レベルまで、縦断的な協力体制も鍵となってきます。2017 年は、そのような SMILE に力を注いでくれる全ての関係者で目的を明確に共有し、学習者の女性たちを包括的に支援する姿勢を再確認する目的で、SMILE コンセプト図を現地のみなさんと作成しました。合言葉は「女性と子どもに質の高い生活(QOL)と幸せを！」です。お母さんの学びを通じて家族が、そして地域がより良い環境へと変化する様子を描いています。



ACCU スタッフとファシリテーターを含む各レベルの関係者で意見を交わしました。



新たに学習に参加する方々にも伝わり易いよう、イラストをふんだんに使用しました



現場のみなさんの声

私は母の商売の手伝いと、障害を持った弟の面倒を見るため、小学校を3年生のときに中退しました。それ以来、勉強をする機会はおろか、村の会合にも顔を出すことがないくらい多忙な生活を送っていました。その為、18歳で結婚して母親になっても、正しい育児の方法が分からず、ましてや自分の健康のことを考えることもありませんでした。一度も保健センターへ診療に行ったことはなく、初めての出産も自宅で行いました。それが、SMILEのクラスで学ようになってからは、読み書きはもちろん、衛生や健康に関する知識も増えました。クラスが始まったとき妊娠していましたが、妊婦検診にも欠かさず足を運び、衛生環境の整った施設で出産をすることもできました。お陰さまで家族の健康状態も良いうえに、家計の支出も減ってとても嬉しいです。

ウン・ソクリーさん 28歳（学習者、3児の母）



読み書きや計算ができないことで多くの困難を抱えていた私は、識字クラスのことを知ったとき、とても嬉しく思いすぐに参加することを決めました。SMILEが始まると、私は同級生の中から先生のアシスタントに選ばれ、毎回のクラスへの学習者の招集、月例ミーティングの開催、村の衛生環境の維持などの責任を与えられました。読み書きの勉強だけでなく、自分の村に貢献する素晴らしい機会を与えてくれたSMILEに感謝しています。

チュン・ポブさん 39歳（学習者、4児の母）

私が9歳の時、内戦が起こり学校に通うことができなくなりました。それでも、学ぶことを決して諦めず、学校以外の場でも勉強を続けました。時には夜にろうそくの光だけで隠れるように勉強したこともあります。今年、私にとって識字クラスのファシリテーターを務める2年目でしたので、教えることに以前よりも自信を持つことができました。村の女性たちにクメール語の読み書きを教え、ライフスキルを身に付ける手伝いのできたことをとても嬉しく思います。また、村長としてSMILEの学習者たちが学んだことを家庭でも実践していることを、とても誇りに思っています。識字クラスを私たちのために開き、私たち女性を健康で強くしてくれたSMILEに感謝します。

ユン・ペーンさん 58歳（ファシリテーター、村長）



読み書きの力で女性に笑顔を！

カンボジアのSMILEプロジェクトは個人と企業の皆さまからの寄付によって支えられています。アジア太平洋の女性を応援するためのご支援をお願いします。

郵便振替口座： 00120-7-365298

口座名義： ACCU アジアの女性識字振興募金

※ACCUは公益財団法人ですので、寄付金控除の対象となります。

